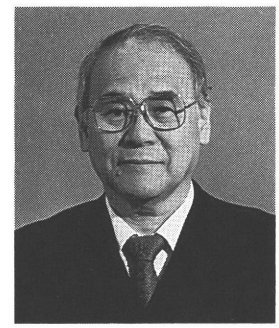
第6回日本癌病態治療研究会の開催にあたって



群馬大学第1外科　長町幸雄

第6回日本癌病態治療研究会を，ここ北関東の“水と緑と詩のまち—前橋市”で開催させていただくことになり，教室員一同この重責を果たすべく，目下鋭意準備中です．

本研究会の目指すところは，肉眼でみる癌の表象からその超極微の成因背景までを究明することであると言えましょう．癌の本質に迫る病態解明の道程は遠く，その手段の選択も限りなく裾野を広げ続け，成因から診断さらに治療戦略にいたるまで分子生物学的アプローチが駆使されています．

たとえば遺伝子の解明が癌の分野でも行われ，研究の進展の速さと多様性には刮目すべきところ大であります．

しかし，現実には問題点もたくさんあります．癌患者の治療に直接携わる臨床医の期待と癌細胞を扱う基礎生物学者の分子病態学的研究成果との間に横たわるギャップをいかにしたら狭められるか？が課題であります．

臨床の実態と細胞レベルでの病態解明の成果が結びつくことが癌を迎え撃つ究極の目標であるとすれば，本研究会の担う役割と意義は大であります．今年度の研究成果の発表に期するところもまた大であります．

高邁な理想を掲げて対癌戦略を練っておられる研究者に対し，気持よく発表と討議ができる環境を提供することが当番世話人の使命と考えて，会場を選び，プログラムの内容にご満足いただくように心がけました．

しかし，プログラミングにあたってはあまり強欲に走らず，特に主題も決めず，癌の病態・治療に関するup-to-dateな諸問題を扱った演題を募らせていただきました．しいて本年度のテーマを掲げれば「癌の病態と治療の何がどこまでわかったか？」ということになると思います．

また今回は公募演題77題を厳密に査読して，シンポジウム1題，ワークショップ4 session，ミニシンポジウム7 sessionに組み分け，特に興味のある症例は資料を目でみ

て討議できるようにポスターでご発表いただくようにお願いし，お手を煩わすことになりました．

特別講演は宮園浩平先生に「TGF-β レセプターのシグナル伝達と癌」と題する最新の話題を提供していただけることになっております．シンポジウムは「癌の診断治療における分子生物学的アプローチ」のテーマで6人のシンポジストによる専門的立場からの発表をいただき，活発な討論を期待いたしております．

今回のプログラム編成は公募演題をみてから発表形式を分類させていただいた変則的手法による試みであります．ミニシンポジウムとワークショップですべての講演発表を総括討論していただき，限られた時間内に活発な討論を展開できれば，聴衆側の先生方にとっても発表者自身にとってもメリットが大であると愚考した次第です．

また，本研究会では恒例となった特定共同研究班の研究成果をまとめた年次報告が継続中であり，本年度もHLA班，遺伝子班，メタアナリシス班からの報告が行われます．ご期待いただきたいと存じます．

終りに臨み，ご司会ならびに座長の労をお引き受け賜りました先生方に対し，深甚なる謝意を表し，当番世話人の挨拶に代えさせていただきます．

第6回　日本癌病態治療研究会

当番世話人：長町幸雄（群馬大学医学部第1外科）

開　催　日：平成9年5月9日

場　　所：前橋テルサ

連絡先および事務担当

〒371　前橋市昭和町3-39-15
群馬大学医学部第1外科
第6回日本癌病態治療研究会
当番世話人：長町幸雄
TEL 027-220-8224　FAX 027-220-8230